

学長及び教員の個人調書（記入例）

様式第4号（その1）

記入例 1 / 4

履 歴 書		
フリガナ 氏 名	サトウ タロウ 佐 藤 太 郎 <small>[外国人の場合「姓・名・ミドルネーム」の順に記入]</small>	♂・♀
生年月日 (年齢)	昭和〇〇年〇〇月〇〇日生 (満〇〇才) <small>[平成 年4月1日現在の満年齢]</small>	写 真
現住所	〒603-〇〇〇〇 京都市北区上賀茂〇〇町1-12 TEL (075) - (000) - (000) 携帯電話 (090) - (0000) - (0000) E-mail ()	
学 歴		
年 月	事 項	
昭和〇〇年3月	〇〇大学〇〇学部〇〇学科卒業	
昭和〇〇年4月	〇〇大学大学院〇〇研究科修士課程〇〇学専攻入学	
昭和〇〇年3月	同 修了	
昭和〇〇年4月	〇〇大学大学院〇〇研究科博士課程〇〇学専攻進学	
昭和〇〇年3月	同 修了 (又は) 同 単位取得満期退学	
昭和〇〇年3月	〇〇博士 (〇〇大学) (又は) 博士 (〇〇学) (〇〇大学)	
	<small>[旧制高校, 旧専門学校の学歴は記入して下さい。] [称号等は記入して下さい。] [学位番号は記入不要です。]</small>	
職 歴		
年 月	事 項	
昭和〇〇年4月	〇〇株式会社入社	
昭和〇〇年3月	同 退職	
昭和〇〇年4月	〇〇大学〇〇学部 (〇〇研究所) 助手	
昭和〇〇年4月	〇〇大学〇〇学部非常勤講師	
昭和〇〇年4月	〇〇大学〇〇学部講師	
昭和〇〇年4月	〇〇大学〇〇学部助教授	
平成〇〇年1月	文部科学省教員組織審査において, 京都産業大学〇〇学部〇〇学科教授 (〇〇学, 〇〇論) として認定	
平成〇〇年4月	〇〇大学〇〇学部教授 (〇〇〇〇担当) (現在に至る)	
平成〇〇年1月	文部科学省教員組織審査において, …DⓄ教授…認定	
平成〇〇年4月	〇〇大学大学院〇〇研究科DⓄ教授 (〇〇〇特別研究担当) (現在に至る)	
平成〇〇年4月	〇〇大学学生部長 (平成6年3月まで)	
	↑ ↑ <small>[現在の主要担当科目を記入して下さい。]</small> <small>[現職には必ず付記して下さい。]</small>	

学会及び社会における活動等

年 月	事 項
昭和〇〇年4月 昭和〇〇年4月 昭和〇〇年4月 昭和〇〇年4月 昭和〇〇年4月	〇〇学会会員 日本〇〇学会会員 〇〇学会幹事（平成〇年3月まで） 〇〇学会〇〇委員 〇〇学会会員 [加入年月順に記入して下さい。] [現在加入のすべての学会の加入年月，学会名（フルネーム）を記入して下さい。]

賞 罰

年 月	
平成〇〇年〇月	〇〇学会〇〇賞（論文名 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇） [又は「なし」]

職 務 の 状 況

勤 務 先	職 名	学 部 ， 学 科 等 （所属部局）の名称	担当授業科目名	毎週担当授業時間数				備 考
				専任	兼担	兼任	計	
京都産業大学	教 授	工学部生物工学科	〇〇〇〇概論	2			2	※複数でご担当の科目
〃	〃	〃	〇〇〇〇〇実験	2			2	についての時間数の記
〃	〃	〃	〇〇〇〇〇	2			2	入方法は、「個人調書等
〃	〃	工学研究科〇〇専攻	〇〇〇〇〇特論	4			4	記載要領の（別紙）」を
〃	〃	理学部物理学科	〇〇〇〇〇		2		2	ご参照下さい。
〇〇工業大学	講 師	理工学部物理学科	〇〇〇〇〇			2	2	

上記のとおり相違ありません。

平成 年 月 日

氏 名 佐 藤 太 郎 印

教 育 研 究 業 績 書		
平成 年 月 日		
氏 名 佐 藤 太 郎 ㊞		
教育上の能力に関する事項	年 月 日	概 要
1. 教育方法の実践例 ・優れた教育方法の実践例、マルチメディア機器を活用した授業方法、学生の授業外における学習促進のための取り組み、講義内容のweb上での公開等		
2. 作成した教科書、教材 ・作成した教科書、教材、講義で教科書として使用している著書、教材等の概要(後の「著書、学術論文」との重複も可。その場合、「(再掲)」と表示)		
3. 当該教員の教育上の能力に関する大学の評価 ・各大学での自己点検・評価の一環として、教育面で高い評価を受けた事実(その事由と評価内容) ・採用決定の際等における教育上の能力に関する評価 ・学生による授業評価、教員同士の相互評価等をまとめたもの ・上記以外で、学長、学部長、諸機関等が行った評価(客観性を持ったものについて記載)等		
4. その他 ・大学教育改善に関する団体等での活動の概要 ・教育実績に対する受賞歴等		
職務上の実績に関する事項	年 月 日	概 要
<ul style="list-style-type: none"> ○企業、官公庁等の研究者の場合 <ul style="list-style-type: none"> ・開発した新製品・製法、作物等の新品種などの概要 ・取得した特許等の概要 ・大学との共同研究による研究実績がある場合、その概要、成果、当該研究者の役割 ○その他、企業・団体等関係者 <ul style="list-style-type: none"> ・国際援助・開発、先端技術、国際金融等高度に専門的な実務に従事した実績 ○情報技術者関係の場合 <ul style="list-style-type: none"> ・コンピューターに係る職務歴(職務上のコンピューター活用法、ソフト・システム開発歴) ○マスコミ関係者の場合 <ul style="list-style-type: none"> ・執筆した記事の概要 ・作成した番組の概要 ○法曹関係者の場合 <ul style="list-style-type: none"> ・関係した訴訟等での活動や判決の概要 ○医師や看護師等医療技術者の場合 <ul style="list-style-type: none"> ・症例研究会での発表等の活動 ○福祉その他社会活動の関係者の場合 <ul style="list-style-type: none"> ・参加した活動や団体の名称、活動内容・期間、本人の当該活動における地位 ○スポーツ等実技関係者の場合 <ul style="list-style-type: none"> ・指導者としての経歴・実績・資格 ○芸術関係者の場合 <ul style="list-style-type: none"> ・作品の概要 ○博物館、美術館等関係者の場合 <ul style="list-style-type: none"> ・担当した展覧会の概要 ・執筆・監修した展覧会図録の概要 ○その他全般を通じて <ul style="list-style-type: none"> ・大学から受け入れた実習生に対する指導歴(看護・福祉実習、企業実習等) ・企業内教育、大学公開講座、社会教育講座の講師としての講義等の概要 		

